

## 横浜市のエコロジー拠点等配置図

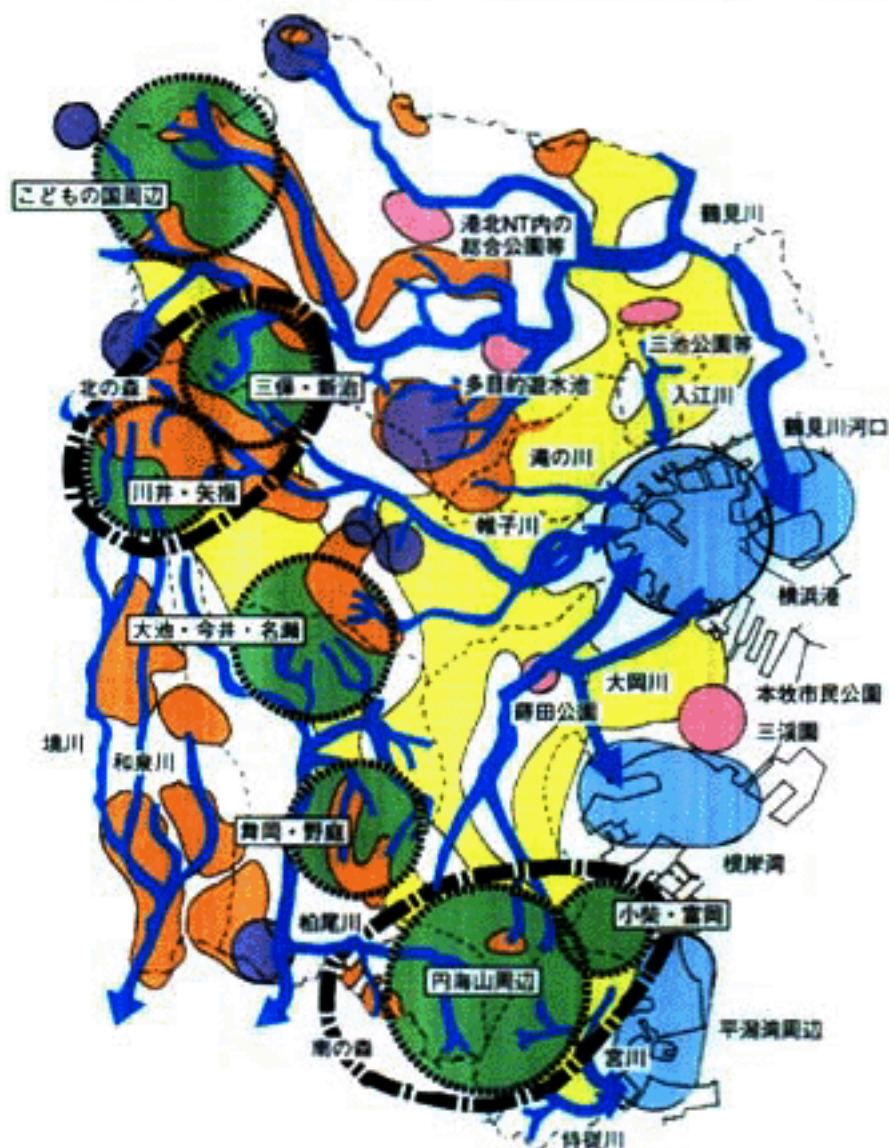
### ●まちの自然をつなぐ取組み

日本でも生態系のネットワークを目指した試みが、地域レベルで始まっています。例えば、神奈川県横浜市は300万人以上の人口を抱える大都市でありながら、丘陵や河川、海といった自然環境や農地などが残っています。それらを保全して人と自然の共生を進めることが、個性的な都市整備に重要だと位置づけで「全市的なエコロジカルネットワーク」の形成を目指しています。

**【7つの大拠点】** 多摩三浦丘陵群に7ヶ所の大拠点が位置づけられています。大拠点は2つ以上の水系の源流域となっている広い面積の生態的拠点です。

**【エコアップ】** 大拠点に加えて、まとまった農地や谷戸、大きな都市公園、緑地などの生態的な質の向上が図られます。

**【ネットワークの形成】** 7大拠点等を源流とする8つの河川や遊水池、都市公園、学校緑地、せせらぎ緑道などで生態的なネットワークが作られます。



「環境エコアップマスタープラン概要版」(横浜市)より

横浜市のエコロジー拠点等配置図。多摩三浦丘陵群の中央部に位置する横浜市は、丘陵部に源流を持つ8つの中小河川があります。市の計画では、8本の河川をエコロジーベルトと位置づけて流域ごとの生態的ネットワークの基本軸としています。

### ●トンボ池のネットワーク

小さなトンボ池も横浜市の「全市エコロジカルネットワーク」の一環です。市内の小学校や公園緑地などにトンボ池をつくって、それらのネットワークづくりが進められています。

トンボ池はすでに40ヶ所近くが整備されていますが、例えば同市金沢区にある大道小学校では、創立50周年事業の一つとして、昔の子どもたちが親しんだ水辺の復元に取り組みました。学校の裏山からの流れを利用してコンパクトな水田・湿地が再現され、マコモやアサザ、クロモなどの水生植物を植栽したところ、22種のトンボの飛来が確認されています。この学校での取組は、教師や児童、PTAだけでなく、地域住民や卒業生なども参加しており、市民ぐるみの活動としても注目されています。



マコモ、カンガレイなどの抽水植物、アサザなどの浮葉植物、クロモヤタヌキモなどの沈水植物が植栽されました。(写真提供：横浜市環境保全局)